

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 2年 9月 7日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4672700129
法人名	医療法人蒼風会
事業所名	グループホーム花心家
所在地	鹿児島県南九州市川辺町下山田1726-1 (電話) 0993-57-2113
自己評価作成日	令和2年7月10日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町1 6番A棟3F302号
訪問調査日	令和 2年 9月 3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

木造民家を改修したグループホームであり、自宅に帰って来たような雰囲気、新規入居者も馴染みやすい環境となっている。また、周囲には田畑や山などの自然が眺望でき、四季を感じながら暮らすことが出来る。住環境は、民家改修型のため玄関や居室、居間への出入り口に段差があるが、生活リハビリとして利用している。母体が心療内科病院であり、医療連携体制加算に伴う看護師訪問や定期的な受診を通じて医療面への支援は連携が取りやすい関係性にあり、入院治療を含め早期対応が取れる体制である。職員は、入居に至るまでの人生と背景を理解し、アットホームなグループホームを目指し、入居者から学び楽しく過ごして頂けるよう工夫しながらチームケアに取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、南九州市川辺支所から3km程離れた自然豊かな農村地域の市道沿いに平成18年に民家を改修して開設されている。縁側や上がり框がある純日本家屋で、園庭には庭石や石灯籠が設置され、多くの樹木や草花等も植えられており、利用者は自宅に近い雰囲気の生活環境の中で、四季を感じながら平穩に生活している。

管理者及び職員は、ホームの理念に「地域と触れ合いながら、ゆっくり、楽しく過ごしながらその人らしく生活していただく」を掲げ、玄関やリビング、トイレ等に掲示して意識づけし、研修の実施や部署会時にケアの振り返りや意見交換等を行って、利用者の尊厳や想いを大切にしながら理念に沿ったケアの実践に取り組んでいる。日頃のケアの中や面会時、電話、ライン等で利用者や家族の意向や要望等を把握し、全員で協議して改善を図っており、利用者及び家族との協力体制や信頼関係が築かれている。

利用者の何よりも楽しみで関心事でもある日々の食事については、栄養バランスや旬の食材の活用、嗜好、盛り付け等に十分配慮している。おせちや敬老会等の行事食や誕生日の希望食、彼岸や十五夜など長年の食習慣を大切に、弁当持参の花見、家族との会食、手作りのおやつ、利用者が主体的に作る回転焼きやかき氷、園庭でのバーベキューやお茶等、利用者の楽しみとなるよう工夫している。

管理者は、日頃から職員とのコミュニケーションに努め、気軽に意見を言い合える信頼関係と協力体制を構築している。日頃の業務の中や部署会等で意見や要望等を聞き取り、職員の勤務状況、健康状態、個人的な事情等に配慮して、サービスの向上や働きやすい職場環境の整備を法人代表とも協議しながら努めている。ケアに対する助言・指導やスキルアップを図る研修の実施、資格取得へのバックアップ等も日常的に取り組んでいる。

外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
1. 理念に基づく運営				
1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	目に付きやすい場所に理念を貼り、いつでも確認できるようにし、実践に繋がるように努めている。	ホームの理念に沿って、利用者が「地域や家族と触れ合いながら、ゆっくり楽しくその人らしい生活」を過ごせる支援に取り組んでいる。理念は目に付き易い玄関やリビング、トイレに法人の理念と共に掲示して認識を共有し、部署会での研修や申し送り等でケアの振り返りや意見交換を実施して理念の実践に努めている。	
2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流は少ないが、地域の方や地域の業者より米・卵・調味料等を購入している。地域のイベントには可能であれば参加し馴染みの関係性の構築に努めている。	地域との交流が大切と捉えており、自治会に加入して地域の情報を得ている。地域の行事「キャンドルロード」に出かけてフリーマーケット等に参加し、敬老会にはボランティアの踊りの訪問があり、地域の人の施設見学や高校生の職場実習を受け入れており、菜園の除草等を地域の人が随時、自主的に行ってくれている。コロナ感染症の影響で外出を自粛しながらもホーム周辺の散歩時には地域の人と会話し、家族の面会や農産物の頂くなど、円滑な交流が図られている。	
	○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域の方々に事業所の力を活かした地域貢献出来ていない。まずは施設を知っていただく事が課題である。		
3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、事業所報告、事故や感染状況、身体拘束状況の有無を報告し、意見・助言・要望等をお伺いしている。又、その内容によっては職員間で話し合い、実践できるように努めている。	会議は、家族、住民代表、市担当職員等が参加して定期的に開催し、利用者の状況や行事の開催状況、ヒヤリハット等を報告している。また、委員からは認知症ケアや感染予防、災害発生に対する意見や質問等が出されており、職員は内容を議事録で共有し部署会等で協議してサービスの改善に繋げる等、有意義な会議となっている。	

外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の際に事業所の報告を行い、緊急時などの協力も頂ける体制になっている。	市担当職員には運営推進会議に出席して貰うと共に、介護保険の更新や諸手続き及び報告等の際に訪問や電話で相談を行って、助言・指導を頂くなど密に連携を図っており、協力関係を構築している。また市が主催する会議や研修等にも積極的に参加して、情報や意見の交換を行なって改善に繋げている。	
5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設の前が市道に面しており、交通量が多く、事故の危険性があるため、門扉には閉をしてしている。夜間帯のみ玄関の施錠している。勉強会を年2回開催し、具体的な内容の理解と、拘束をしないケアを心掛けている。やむを得ない場合には、ご家族の同意を得ている。	身体拘束の廃止については、運営規定や重要事項に明記すると共に、法人全体及びホーム独自の研修を計画的に実施して認識を共有している。日頃の業務の中や申し送り、部署会等で振り返り、委員会も年6回開催して利用者の気持ちを尊重した拘束の無いケアに取り組んでいる。特に言葉遣いについては、日頃から注意し合って改善に努め、外出したがる利用者には散歩に同行する等、見守りや寄り添いに努めて気持ちの安定を図っている。やむを得ず人感センサーを使用する際は、事前に家族と十分協議している。	
	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ニュース等で話題となった事をきっかけに自施設を振り返り、考える機会となっている。学研ナーシングサポートeラーニングシステムにて関係するプログラムを職員で視聴し、学習の機会としている。		
	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、活用されている方がいないが、資料を掲示し、いつでも目を通せるようにはしている。学習会を定期的に開催する必要性を感じる。		

外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に重要事項説明文を用いて説明を行っている。不安な点・疑問点等は都度、説明し対応するように努めている。改定の際には文書にてお知らせし、新たな重要事項説明文にて説明し同意を得ている。		
6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、面会時に、ご家族の要望等をお伺いした内容は、ミーティング等で共有し、可能な範囲で反映できるように努めている。	利用者の思いや意見は日常の会話や表情、所作の見守りで理解に努め、家族の意見や要望等は運営推進会議や来訪時の対話、電話、ライン、提案箱、「花心家通信」で近況を伝える等、工夫して把握している。職員は出された内容を「業務日誌」や部署会、申し送り等で共有し、法人本部とも協議しながら改善を図っている。	
7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の会話や部署会・提案書などを活用して可能な限り反映されている。	管理者は日頃から気軽に意見が言い合える信頼関係を構築しており、部署会や日頃の業務の中、必要に応じて個人面談も実施して、要望や意見を聞き取り、法人本部とも協議しながら改善を図っている。また、ケアに関する助言やスキルアップを図る研修の実施、資格取得へのバックアップ等に努め、個人的事情や休日の希望日等にも配慮して勤務シフトを作成する等、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。外部研修の受講料等は法人の助成があり、給与体系も確立されていて職員の就労意欲向上に繋がっている。	
	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休み希望や要望が通りやすく、子育て中の方々にとっても働きやすい環境と思われる。年に1度の昇給があり、楽しみとなっている。職員の思いを組んでいただいている。		

外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内の研修には、参加するように、全職員が努めている。法人外の研修については、回覧にて情報提供しており、希望に応じて受講できるようになっている。</p>		
	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡協議会や交流会を通じて同業者との情報交換を図り、サービスの向上に繋げている。</p>		

外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容

Ⅰ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・ご家族から聞き取った内容を基に個々に応じたケアに取り組み、混乱・不安感を和らげるよう信頼関係の構築に努めている。		
○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の状況や困っている事、不安なこと等、要望を伺いし、関係作りに努めている。		
○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活していく中で、試行錯誤しながら、ケアの方法を確立するように努めている。治療上必要な場合、精神科デイケアの利用を検討している。初期対応での必要としている支援を見極める力が弱い。		
○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることは、見守りながら、ご自身で行っていただき、喪失感を出来るだけ軽くし、自信を持って頂けるように努めている。		

外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
	<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>本人とご家族が過ごされる時間を大切にしている。状況説明や予後予測など、個々に応じて支援できるように努めている。</p>		
8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>知人の面会が希にあり、交流されている。希望に応じて、墓参りや買い物・散髪等外出支援している。</p>	<p>入所時の聞き取りや日頃の利用者の会話、家族からの情報等で馴染みに関する情報を共有し、心身の状態や感染症予防に配慮しながら散歩や買い物、通院、外食、地域行事、一時帰宅等を家族と協力しながら取り組んでいる。家族や友人等の来訪時には、ゆっくり面談出来るように配慮し、電話・手紙の取り次ぎや「花心家通信」で利用者の近況を伝える等、関係の継続に努めている。コロナ感染症による自粛中もサッシ越しの面会やラインによる対話など工夫している。</p>	
	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>意思疎通が図りやすい方・困難な方、気の合う方、そうでない方等おられるので、必要に応じて、関係性を考慮し席の配置を検討している。レク活動等通じて、ゆっくり、楽しく過ごせるように支援している。</p>		
	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所後は、関係性が疎遠となりがちだが、退所先が母体病院の方には不定期ではあるが面会に行くように努めている。</p>		

外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容

I. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>意思を表示できる方の希望には添えるよう努めている。意思表示が困難な方の場合にはこれまでの生活史やご家族からの情報を参考にしながら検討している。</p>	<p>利用者の思いを、日頃の会話や表情、独自のサイン等で把握し、その人らしいの暮らしとなるよう家族とも連携して取り組んでいる。全員での活動に加え、利用者が希望する趣味（絵画や畑仕事他）や家事（炊事や食器洗い、下膳等）の取り組みも残存機能に配慮しながら個別に支援し、それらの成果には感謝や評価を言葉で伝えて自信や達成感が得られるように努めている。</p>	
	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>本人やご家族に伺いフェイスシートやケアプランに記録し、その記録を繰り返し目を通し把握に努めている。</p>		
	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>本人の現状や有する力の把握に努め、ミーティングなどで情報を共有している。</p>		
10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>ケアマネが中心になりカンファレンスを行い、課題に対してご家族や必要な関係者とも連携をとりながらケアプランに反映している。</p>	<p>本人・家族の意向を把握し、主治医の指示やミーティング、モニタリング時の意見を基に、残存機能や生きがいにも着目した利用者主体の介護計画を作成している。計画の策定や実施状況は業務日報やバイタルチェック表等で情報を共有しており、利用者の状況変化に対しては計画の見直しを行い、家族にも十分説明して理解を得ている。</p>	

外部評価	項目	自己評価		外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の他、重要な事は業務日誌に記入して全員が把握出来るようにしている。特記事項はインクの色を変える事で一目で分かるようにしている。			
	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物・散髪・墓参り・自宅への外出・外泊など本人・ご家族のニーズに可能な限り臨機応変に対応している。			
	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	役場や消防署、地域の方の協力等を通じて安心安全な生活支援と有事の際の体制作りに努めている。			
11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体である病院の適時サポート、又、必要に応じて協力医療機関・専門医を受診出来るように支援している。	利用者の入所前の病歴や受診状況は把握されており、本人や家族が希望する医療機関での治療を支援しているが、殆んどの利用者が協力医療機関を主治医としている。定期的な通院が実施され、他科受診も家族及び職員が協力して同行している。医療機関との連携体制も十分で、週1回、看護師の訪問による健康管理や助言指導も実施され、家族との情報共有も密に行っている。		

外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>医療連携加算に伴う訪問看護師に報告・相談し、助言を頂いている。</p>		
	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院した際には、可能な限り毎日面会に行き、状況を伺い、情報交換・相談し、試験外泊等を取り入れ、早期退院ができるように取り組んでいる。</p>		
12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>看取りの対応は、医療支援が重視されるため、現状では当事業所での対応困難であり、母体病院にて見ていただく事となっている旨を入所契約時にお伝えしている。</p>	<p>重度化や終末期の対応については、入所時に「重要事項説明書」や「看取りの指針」で説明して同意を得ている。重度化した時点で主治医より病状の説明があり、家族の意向に添ってホームでの可能な限りのケアに取り組んでいる。最終時点で医療機関への入院が殆んどで、これまで看取りの実施はない。重度化対応に備え、医療機関との連携や職員のスキルアップを図る研修を実施している。</p>	
	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時や事故発生時などに備え、基礎的な知識と対応を学ぶ機会をつくり全職員が実践できるように体験を積むように努めている。</p>		

外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災想定・地震想定の実施している。地域での避難場所も設定し地域の方の避難誘導確認も行っている。また暴風雨・降水量が多い事が予想される場合、訓練を兼ねて数回避難を実施した。</p>	<p>夜間想定を含む火災や風水害を想定した通報や避難の訓練を消防署や法人母体の医療機関も参加して年2回実施している。自動通報装置には地域住民も組み入れ、避難場所も近くの高台に設定しており、住民による避難誘導の協力体制を構築している。雨季には自主訓練を兼ねて避難も実施し、日頃から災害発生を想定した意見交換等で共通の認識に努めている。災害発生に備えて、3日分の飲料水や食品を備蓄し、カセットコンロやラジオ等も備えている。</p>	

外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容

7. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>自尊心を傷つけないよう声かけや対応に心掛けている。</p>	<p>利用者の人格や誇りを損ねるような言葉かけや対応を行わないよう、利用者には敬愛の気持ちで日々支援に努めている。法人による研修を実施し、日頃のケアの中や申し送り、部署会で振り返りを行って認識を共有している。不適切な言葉づかいには、その都度注意し合って改善を図り、個人記録の取り扱いや居室、浴室、トイレについてもプライバシーが確保されている。ボランティアの人には書面を取り交わして理解を得ている。</p>	
	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>思いや希望を表したり、自己決定出来るように働きかけている。言語での表現が困難な方でも、表情の変化で表す事が出来ないか働きかけている。</p>		
	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員の都合となりがちではあるが、なるべく利用者のペースで希望に添えるように努めている。</p>		
	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>更衣の時に服を選んで頂いたり洗面所で鏡を見て頂く。食べこぼし等に気付いた時にはすぐに更衣するように心掛けている。</p>		
15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事の彩りや形態など個人に合わせて工夫している。職員が付き添える時、野菜の皮むきや切るなど行っている。台拭き・お盆拭き・皿洗いなど手伝っていただいている。</p>	<p>栄養バランスや嗜好、形態、盛り付け等に配慮しながら、頂いた旬の野菜も活用して調理している。利用者も食材の下処理や台拭き等を楽しみながら手伝い、職員も一緒に食事するなど、食事への関心が高まるように取り組んでいる。正月や彼岸、節句、敬老の日等の行事食や誕生日の希望食、手作りのおやつ、外食、園庭でのバーベキューやお茶等、食事が楽しみとなるよう工夫している。</p>	

外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	前日の献立を参照し、メニューが偏らないように心掛けている。状況に応じて栄養補助食品を用いている。水分摂取に関しては、本人の嗜好に合わせてこまめに促している。		
	○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯ブラシ・舌ブラシ・口腔ケアウエットなどを使用し、起床時・毎食後・就寝前に個人に合わせた口腔ケアを行っている。		
16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人が希望するタイミングや食事の前等で案内している。言葉で表示出来ない方でも、排泄のサインを見逃さないように努めている。	利用者毎の排泄パターンや習慣を把握し、見守りや声かけに努めて可能な限りトイレでの排泄を支援している。心身の状態に応じた介護用品やケアの方法を、介護計画に反映させて改善に取り組んでおり、オムツから紙パンツへの改善も見られている。便秘の予防に食物繊維やオリゴ糖、水分の摂取、運動量、腹部マッサージ等に配慮し、主治医の指示で頓服も活用して改善を図っている。	
	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をこまめに促し、オリゴ糖を使用している。腹部マッサージを行い、排便困難時には頓服の下剤を服用し、便秘の予防と対策に努めている。		

外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	一応入浴予定は決めてあるが、希望する方は可能な限りいつでも入浴出来るようにしている。	基本の入浴予定日（週3回）を設定しているが、排泄時の汚染等には、その都度清拭や入浴で清潔を保持し、予定外の入浴希望者にも柔軟に対応している。利用者の好みの温度や時間、習慣に配慮して、ゆっくりした気分で楽しんでいただき、入浴後は皮膚疾患の手当や水分補給を行っている。入浴をためらう利用者には、時間や職員の変更、声かけ等を工夫して利用者が意欲を待つように努めている。	
	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は離床を促し、散歩や廊下を歩く等身体を動かすようにしている。午睡は15～30分程度としている。		
	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方変更時には、歩行のふらつきや日中の眠気等の症状がでやすいため状態の変化に注意している。薬の説明書に目を通し、作用・副作用等の理解に努めている。		
	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとの行事計画をし、気分転換を図れるように働きかけている。役割として、日常出来ることを一緒にしていただいている。		

外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>家族の協力を得て、墓参りへ外出されたり、時々、買い物に同伴していただいたり、近所の散歩をしている。</p>	<p>利用者の心身の状態や天候、感染症の流行状況等に配慮しながら、園庭及び周辺の散歩や日光浴、買い物、通院等に出かけている。墓参りや一時帰宅、外食等を家族の協力を得ながら取り組み、また、季節の花見（桜、アジサイ、ツツジ等）、フルーツ狩り、地域のイベント（キャンドルロード他）など全員での外出も計画的に取り組んでおり、利用者の楽しみとなっている。</p>	
	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>基本的に事業所預かりになっているが、希望があれば必要に応じてお渡しする。</p>	/	/
	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>希望があれば、職員がダイヤルして話して頂いている。手紙が来たときにはお渡ししている。</p>	/	/
19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>民家を改修した建物のため家庭的な雰囲気となっている。季節ごとに飾り付けをしたり、音楽を流すなどし、その日その場に合わせた工夫している</p>	<p>広い敷地に大きな和風の古民家を段差解消や手すりの設置等の補修を施して開設されたホームで、園庭には庭石や石灯籠があり、多種の樹木や草花が植えられ、利用者は自宅に近い環境の中で、四季を感じながら平穏に過ごしている。リビングには仏壇が置かれ、障子や襖の建具や調度品も木製品が多く、廻り縁には大きな掃出し窓が設置されている。随所に利用者の作品や生花、小物等が飾られて落ち着いた雰囲気が醸し出されている。清掃や空調、防臭等も徹底して快適な環境となっている。</p>	

外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>建物の構造上、共有空間の居間では独りになることは困難である。思い思いの過ごし方が出来るように自室を活用し配慮するようにしている。</p>	/	/
20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>タンスやテレビ・写真など持って来て頂き、心地よい空間で安心して過ごせるように支援している。</p>	<p>全居室、掃出し窓と縁側があり襖や障子の建具で、ベッド、エアコン、タンス等が備えてあり家庭同様の雰囲気が利用者に喜ばれている。畳部屋とフローリングの2種類の居室は広さも異なっており、生活習慣や身体機能等を考慮して配置している。自宅で使用していたテレビや家族写真、ソファ等を持ち込み、長寿祝いの額等も飾って、その人らしい和める空間となっており、清掃や整理整頓も利用者の意向に沿って支援している。</p>	/
	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>安全で自立した生活が出来るように手すりを設置している。また、居室の入り口に表札を付けて自室の場所が確認できるようにしている。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない